自然災害を思考する①

自然災害死史観からみた幕末・明治維新

わが国を襲った歴史上の自然災害を振り返ってみると、あることに気づく。江戸の幕末期（1840～50年代）に、巨大な地震や台風が相次いで発生・襲来し、我々の国土に甚大な被害を与えていることである。

巨大地震、台風相次ぐ

徳川家康江戸入府以後の江戸の事件・風俗・社会事情など広範な記事を年表形式に纏めた『武江年表』によると、利根川が氾濫し江戸一面水浸しになった「弘化3年の大水害」（1846年）に始まり、善光寺本尊の開帳に全国各地から訪れた参詣者が数多く被害にあった翌47年の「善光寺地震」（M7・4、死者8200人）▽小田原が壊滅状態となった1853年の「小田原地震」（M6・7、死者24人）▽翌54年に立て続けに発生した「安政伊賀地震」（M7・25、死者1500人）▽「安政3年の大風災」と続く、激甚災害の歴史。

「安政江戸地震」は江戸開府以来の大地震で、震源は江戸湾直下。マグニチュード7・0～7・1と言われ、死者7400人、倒壊家屋1万4300戸もの甚大な被害をもたらした。被害は江戸の下町、本所・深川・浅草・下谷・小川町・曲輪内で大きく、地震後30カ所余りから出火、焼失面積は2・2平方キロメートルに及んだ。特に新吉原では被害が著しく、ここだけで1000人以上の死者・行方不明者が出た。

安政3年 大風災死者10万余名

「安政3年の大風災」は猛烈な台風が江戸城のすぐ西を通って江戸一帯を暴風と高潮が襲い、前年の安政江戸地震からようやく立ち上がった江戸の町を破壊し尽くした。

公の大被害としては築地西本願寺の本堂倒壊、高潮によって押し上げられた八百石船による永代橋の破損が挙げられる程度だが、深川・洲崎・本所から品川にかけて高潮で海のようになり、町方家財の流失破損はおびただしかった。暴風雨中に火災が発生したこともあって、この大風災によって、死者は10万余名とも言われている。

安政地震
木下直之・吉見俊哉編　平成11年11月『ニュース誕生ーかわら版と新聞錦絵の情報世界ー』東京大学出版会

その後、明治維新にかけては疫病の蔓延が著しい。1857年（安政4）にはインフルエンザが流行し、翌58年（安政5）にはコレラ（俗称コロリ）が猛威を振るった。死体が文字通り山積して火葬場が処理しきれず、江戸はパニック状態となった。『武江年表』はコレラによる死者数を「八月朔日より九月末迄、武家市中社寺の男女、この病に終れるもの凡そ二万八千余人、内火葬九千九百余人なりしと云う。実に恐るべきの病也」と記録している。

維新前 疫病、麻疹が蔓延する

1862年（文久2）には麻疹が蔓延し、これも『武江年表』によると「七月より別けて盛にして、命を失ふ者幾千人なりや量るべからず。三味の寺院、去る午年暴瀉病流行の時に倍して、公験を以て日を約し、茶毘の烟とはなしぬ。故に寺院は葬式を行ふにいとまなく、日本橋上には一日棺の渡る事二百に至る日もありしとぞ」という状況であった。

安政大風災
小林秀雄　昭和63年5月『かわら版物語ー江戸時代マスコミの歴史ー』雄山閣出版

「歴史」変わった直後、大地動く

1846年の大水害から1862年の風疹蔓延まで、わずか十数年の間にこの凄まじい数の死者を伴った自然災害と疫病が頻発したのだ。

高校の歴史教科書で幕末の歴史記述を見ても、こうした自然災害や疫病に関する事項は皆無だ。ペリー来航―日米和親条約―日米修好通商条約―安政の大獄―桜田門外の変―薩英戦争―禁門の変と続き、最後は大政奉還、王政復古の大号令で明治維新となる。

日本史における幕末・維新とは、開国と尊王攘夷運動、そして幕府の滅亡である。だが、これら社会史・政治史と合わせ、大規模地震や甚大な風水害、コレラや麻疹の発生は、幕末・維新に大きな影響を与えたはずである。

安政江戸地震をはじめとする幕末の地震・風水害・疫病の歴史は、250年間戦争が起こらなかった平和な時代（江戸幕府）を崩壊に追い込み、1923年の関東大震災は、大正デモクラシーや大衆文化に彩られた当時の日本を大不況に陥れ、戦争への道に引きずりこんだ。

このように見ると、天変地異は歴史の流れを捻じ曲げるような働きをしているようだ。だとすれば、江戸時代と並び世界的にも例を見ない平和な時代「平安王朝」の終焉は、歴史教科書が示す「武士の台頭」「平氏の専制政治に対する不満」「源平の争乱」だけで説明できるのだろうか？

歴史の流れは、源頼朝の挙兵（1180年）、平清盛の死（翌81年）、源義仲の入京・平氏都落ち（1183年）、一の谷の戦い（翌84年）、屋島の戦い・壇ノ浦の戦い・平氏滅亡（翌85年）、頼朝の奥州平定（1189年）、頼朝の征夷大将軍就任（1192年）と続く。

確かにこれらは、平安時代から鎌倉時代へと大きく変わっていく際の重要な史実である。しかし、よく調べてみると平安王朝末期の1185年、壇ノ浦の戦いで平氏が滅亡した4カ月後、当時の首都・京都直下でマグネチュード7・4の大規模地震が発生していることは偶然だろうか。

「自然災害死史観でわが国の歴史を再考してみる」。そのような視点が歴史教科書にあっても良いのではないかと思う。

幕末・維新の歴史（『詳説日本史』＋自然災害・疫病）

1846年　6月	弘化3年の大水害
1847年　3月	善光寺地震
1853年　2月	小田原地震
1853年　6月	ペリー来航
1853年　7月	プチャーチン来航
1854年　3月	日米和親条約
1854年　6月	安政伊賀地震
1854年　11月	安政東海地震
1854年　11月	安政南海地震
1855年　10月	安政江戸地震
1856年　8月	安政3年の大風災
1856年　7月	ハリス着任
1858年　6月	日米修好通商条約
1858年　～	コレラ大流行
1858年　9月	安政の大獄（～59年）
1860年　1月	遣米使節出発
1860年　3月	桜田門外の変
1860年　閏3月	五品江戸廻送令
1861年　10月	和宮、江戸にくだる
1862年　1月	坂下門外の変
1862年　8月	生麦事件
1862年	麻疹蔓延
1863年　5月	長州藩、外国船砲撃
1863年　7月	薩英戦争
1863年　8月	八月十八日の政変
	天誅組の変
1863年　10月	生野の変
1864年　6月	池田屋事件
1864年　7月	禁門の変
1864年　8月	長州征討（～12月）
	四国艦隊、下関砲撃
1865年　4月	長州再征発令
1865年　10月	条約勅許
1866年　1月	薩長連合
1866年　5月	改税約書調印
1866年　6月	長州再征（～8月）
1867年　5月	兵庫開港勅許
1867年　8月	「ええじゃないか」おこる
1867年　10月	大政奉還、討幕密勅
1867年　12月	王政復古の大号令

※網かけは自然災害死史観を加味した史実
※月は陰暦で統一

石井進・五味文彦・笹山晴生・高埜彦
平成16年3月『詳説日本史』山川出版社